

2019年7月25日発行  
179号

# 地域と協同の 研究センターNEWS

【巻頭言】

## 福島<sup>の</sup>食と農の再生に貢献する福島大学食農学類が開設

－東日本大震災・原発事故被害を長期的に克服する人材を養成－

荒井 聡

2018年8月、戊辰戦150年の記念すべき年に福島大学農学群食農学類の設置申請が認可された。地元では「百年来の悲願が実った」との喜びの声も上がった。そして本年4月には、新入生108名が元気に入学してきた。学類長は東京大学元農学部長の生源寺眞一教授が務める。

有数の農業大県でありながら、福島県にはこれまで農学系学部がなかった。これ自体が驚かれる。大震災前から、農業団体を中心に、地元で農学部の設置を望む声は強かった。それに一気に拍車をかけたのが大震災と、それにともなう東京電力福島第一原発事故である。放射能汚染が双葉8町村を中心に広域に及んだ。懸命の除染作業、放射線除去対策等により、放射線量は低下し、ここ数年は、福島県産の農産物で国の安全基準を超えるものは検出されなくなった。しかし、風評被害は容易にはなくなり、今なお、福島の生産者、食品事業者の苦しみは全県的に続いている。その解決には長期的な視座が必要となる。

食農学類は、こうした福島の食と農が抱える諸課題を長期的に解決する人材を養成する目的で、地元からの非常に強い要請に基づき設置された。震災後の福島大学の復興支援活動から導き出された福島の食と農の再生を図るための4領域（食品科学、農業生産学、生産環境学、農業経営学）に38名の教員が配置される。4領域が密に連携し、食の安全を確保し、地域個性を發揮してブランド力向上を図り地域に貢献する新しい総合農学の創造を目指している。大震災から8年余が経過し、これまで復興支援研究活動に関わってきた県外大学等の研究機関は、次第に関係が薄れ、途絶えてきた。この面からも地元大学への期待が強まっている。

大震災後間もない福島での土壌スクリーニング活動は、東海地域をはじめ県外の協同組合関係者などの多くの参加と支援を受けて実施された。また、福島の桃をはじめとする農産物を「食べて支える」活動など多くの支援を受けた。これらの支援が福島の関係者を大きく勇気づけた。さらに福島県内でも協同組合間提携組織が、福島の食と農の安全を確保するための共同の取り組みを精力的に実施した。これら多くの協同組合による福島復興の取り組みが地元をひとつにまとめ、食農学類誕生の土台となったと言っても過言でない。

私事ながら、岐阜大学から福島大学へと併任（16年）・転任（17年）し、食農学類設置業務に携わり、当初の目的を達成でき肩の荷がおりた。そして休む暇もなく福島県生活協同組合連合会理事に就任した。こちらの面でも福島の食と農の再生に向けて貢献していきたいと念じている。

これまでのご厚誼に感謝します。引き続きご指導を賜りたくお願い申し上げます。

（岐阜大学名誉教授・福島大学教授 あらいさとし）

CONTENTS			
1	【巻頭言】福島 <sup>の</sup> 食と農の再生に貢献する福島大学食農学類が開設－東日本大震災・原発事故被害を長期的に克服する人材を養成－荒井 聡	4	2019国際協同組合デーの東海3県での取り組み
2	三河地域懇談会世話人会主催 やなマルシェ・新城センター見学会	5	地域と協同の研究センター研究員報告（中間）「日本社会における外国人雇用と協同組合に期待されること」
3	新理論研究会の報告「協同の再生」と協同組合の役割	6	情報クリップ
		8	企画案内「第65回日本母親大会in静岡」

三河地域懇談会世話人会主催

待望の

## やなマルシェ・新城センター見学会 開催しました

文責：伊藤小友美（事務局）

2019年6月15日（土）、三河地域懇談会世話人会主催の「やなマルシェ・新城センター（コープあいち）見学交流会」を15人の参加で開催しました。

やなマルシェについては、「東海交流フォーラム」で2度報告をしています。八名（やな）地区は新城市の南西部に位置し、伝統野菜「八名丸里芋」の産地でもあります。どんどん高齢化、少子化がすすみ、買い物をする場所はAコープ八名店だけだったのが、唯一のお店がなくなるという危機がやってきたのが、2年前の3月でした。閉店からすぐ朝市を始めたのが、JA愛知東女性部の



みんな待っているJ笑門

女性たちで、彼女らはコープあいちの組合員でもあります。以来2年間、休みなく毎週土曜日に「やなマルシェ」を開催し、JA愛知東のJ笑門（ジェイエモン）という移動販売車も来るようになりました。全国から注目を浴びています。店舗や厨房も改装し、地域のみなさんがつどう場にしたいという彼女らの取り組みは

どんどん進化しています。ランチも食べられるようになったと聞き、見学・交流会を開催することになりました。近くにあるコープあいちの新しい新城センター

（宅配事業の拠点）の見学もあわせて行いました。

マルシェの入口には「2周年の歩み」の写真が貼られていて、この間の様子がよくわかります。店の内外には、花の苗や野菜、浴衣生地で作られた帽子やアクセサリ、バラの花、リサイクルの洋服、おもちゃ等、さまざまな商品が並んでいます。出店されている地元の方々とのおしゃべりもはずみます。店内からはコーヒーやお出汁のいい香りがします。さまざまなものを見ているうちに、Aコープの音楽が流れて、移動販売車J笑門が登場しました。軽トラの中に、たくさんの商品が積まれています。冷凍品も冷蔵品もあります。野菜も果物もお菓子もアイスクリームもあります。お惣菜やパンも人気です。毎週このJ笑門目当てに来る方も多いと聞きました。その後、手づくりのランチを美味しくいただきました。周りにはコーヒーを楽しむ方々もおられて、とてもいい雰囲気でした。にぎやかな集いの場になることが期待されます。



やなまるコロッケ付き特製ランチ

コープあいち新城センターは、中山間部のセンターとして、地域のみなさんにとっても配慮をした商品のお届けをしています。センター長の中村太（なかむらふとし）さんに詳しくご案内していただき、お話をお聞きしました。認知症の方への対応は、「これは先週買っていたから、今週はやめといたら？」などと家族のような心配りをされています。豪雨被害で道が寸断されてトラックでの配送ができなくなったときも、飯田線の駅まで商品をお届けしたそうです。組合員だけでなく地域のみなさん



新城センターにて

に頼られるセンターとして愛されている様子をうれしくお聞きしました。施設の特徴としては、25Kwのバイオディーゼル発電設備があること、35坪の防災用倉庫があること、50Kwの太陽光発電設備があること、軽油スタンドがあることが挙げられます。雨水利用タンクも3基あり、1,500リットルの雨水を溜めています。バイオディーゼル発電の熱は、事務所の床暖房として利用し、冬季の電力消費を抑制しているそうです。

嵐の予報が出されるほどのあいにくの天候でしたが、あまり雨にぬれることもなく無事、すてきな時間が過ごせて参加者一同、温かな気持ちで帰途につきました。三河地域懇談会では、引き続き、地域の協同の取り組みに学んでいきます。

## 新理論研究会の報告

## 「協同の再生」と協同組合の役割

6月30日、「ウィンクあいち」にて、新理論研究会（日本協同組合学会）が開かれました。参加者は50名以上、東京、千葉、長野、京都等広く研究者が参加されました。今回は「地域と協同の研究センター」共催でした。第一部として、二つの実践報告があり、それを受けて、第二部では二人の研究者の理論的分析の報告がありました。

**【開会挨拶】**日本協同組合学会会長**田中夏子氏**：特に興味深かったのは、現状の協同組合、NPO、連帯経済の実践が、国や行政がすすめている「公共私による暮らし維持」という枠組みで提起されている内容と大幅に重なる構図がみられるが、それは異なるベクトルであり、その意味や帰結を極める必要あるという指摘でした。

**【座長解題】**向井専務：二つの実践事例を通して、協同活動の本質（共通点）とはなにか、そこにどのような社会資源が生かされているかを考えること。それに地域生協とコミュニティの関わりをみる場合、三つのフレームワーク「住民の自治力」「社会資源としての生協」「自治体や公的制度の関与」の関係性の視点が重要であるということ等が指摘されました。

**【実践報告】**（1）**新城市「やなマルシェ」をどうしてめざしていること** 報告はJAと生協の組合員で八名地域協議会の**山本いづみさん**。JAのお店の閉店という事態に直面し、なんとかしなければと、地域協議会の力も借りながら軒下を借りての朝市の開催にこぎつけ、「やなマルシェ」として、「八名丸コロッケ」や「揚げたこ焼」など品数も増やししながら、多くのつながりや協力の上に1年後には、ひろく店内の利用もはじまり、食堂の開設など人が気軽に集まれる場所として発展していく様子が発表されました。

（2）**「ささえあいの家」からふりかえるー住民自治と協同の力ー** 報告は、各務原市八木山地区社協の**清水孝子さん**。郊外の住宅団地で「ささえあいの家」を立ち上げ、「終の棲家」とすべく、「営繕の会」をはじめ、ボランティアや助け合いの活動の広がりの中で、活動の進化が生まれています。旧来の自治会との関係にはまだ課題があるようですが、協同の実践として、学ぶべき豊富な内容が紹介されました。

**【報告】**（1）**実践報告の意味と協同組合研究に問われていること** 報告：**向井清史氏**（名古屋市立大学大学院研究科・特任教授）地域社会の解体（地域産業解体と人口減少）に対し、協同組合は一定の役割を果たしているが、その変化を理解するためには、思考フレームの転換が必要である。例えば、市民の顧客化とポピュリズムに対しては、公共圏を基盤にした熟議民主主義が必要。個の自立とコミュニティの再建を取り込む近代化論が求められる。これを協同組合事業的にどう解釈できるか。コストを協働の力で吸収するためには、リアルな社会参加が求められる。協同組合の外部で起きている市民的協同のエネルギーを取り込み、それを梃子にして再生を目指すべき時代となっている。

（2）**協同組合研究における経済学的アプローチの有効性** 報告：**安藤信雄氏**（中部学院大学・経営学部教授）

これまで協同組合研究では経済学からのアプローチが乏しく、参考になるのは向井氏のA『ポスト福祉国家のサードセクター論』や小野澤氏のB『経済学の動向と協同組合の位置づけ』などの論考である。Aでは資本主義システムでの福祉にはその社会権の公平性が災いし政府にも力はなく、この福祉制度を再構築する主体として、市民をエンパワメントしていくサードセクターに「熟議の基盤」が存在すること。また、Bでは協同組合に関して幅広く理解を高めるため、コモنزの「集団経済学」やボウルズの「進化社会科学」の経済学の必要性が指摘されている。安藤氏は「情報循環による人間の制度と進化」において、価格競争による利潤率の低下からイノベーションの追求が求められ、創造的人間への需要の増加と、多様性の必然性による画一的人間による社会の瓦解と個性的個人のコミュニティによる協同の必然性が、新しい組織的生産と消費の経済社会へ向かうと指摘されている。（以上二つの報告と、それを受けての質疑応答については『地域と協同』に詳しく紹介される予定です。）

\*「やなマルシェの実践」は、この日JA女性組織東海北陸地区研修会にて最優秀賞を受賞されました。

熊崎 辰広（くまざき たつひろ、地域と協同の研究センター事務局）

## 2019 国際協同組合デーの東海3県での取り組み

渡辺 勝弘

2019 国際協同組合デーは7月6日(土)。今年のテーマは「COOPS FOR DECENT WORK—協同組合は働きがいのある人間らしい仕事(ディーセント・ワーク)を実現します」です。

愛知県は7月8日(月)に記念行事、岐阜県では7月12日に「協同組合を考える集い」が開催されました。三重県の行事は秋に予定されており、7月は「国際協同組合デー記念ワンコインコンサート」が開催されました。各県の取り組みを報告します。

### 愛知県「2019 国際協同組合デー記念行事 in 愛知」 7月8日(月) / JA あいちビル(名古屋市中区)

JA グループ愛知、コープあいち、南医療生協、北医療生協、ワーカーズコープ、大学生協、地域と協同の研究センター等から、98名の参加。

青竹豊氏(日本協同組合連携機構・JCA 常務理事)の基調講演「地域の課題解決に向けた協同組合の可能性を広げる」に続き、記念行事実行委員から連携事例を紹介し連携の可能性について提言。「医療・介護・福祉」と地域別の6つ、合計7つのグループに分かれて討議しました。

最後のまとめ会で地域別グループはJAから「地域課題は現実化しており、それぞれの組織が課題を直視することが大事」、コープあいちからは「地域の困りごとを真ん中に置けば見え方も違ってきて、連携で解決することにつながる」、「医療・介護・福祉」は南医療生協の「地域でなおす医療」を深めて「互いの違いを知ることから出発」、と討議内容の発表がありました。

### 岐阜県「協同組合を考える集い」

#### 7月12日(金) / ホテルパーク(岐阜県岐阜市)

岐阜県協同組合間提携推進協議会(構成団体:JA 岐阜中央会、JA 全農、岐阜県酪連、岐阜岐阜県生協連)主催の「協同組合を考える集い」が開催され、県内の協同組合と連合会から約170名が参加しました。

JA 全農岐阜の高坂茂副本部長の開会挨拶につづき、同協議会幹事会の座長・李侖美准教授(岐阜大学)から、岐阜県の協同組合間提携推進の歴史やおもな取り組みについて、報告と課題提起がありました。

情勢として、JA 岐阜県中央会の渡邊健彦常務理事より「JA グループの当面の課題と対応」のテーマで、農協改革の進捗状況や今後に向けての推進課題などの報告。つづいて、「協同組合の連携によるSDGsの実践事



岐阜県「協同組合を考える集い」全景(7月12日/ホテルパーク・岐阜市)

例」について日本協同組合連携機構(JCA)副主任研究員の阿高あや氏からの事例報告を共有しました。

講演は奈良女子大・中山徹教授より「人口減少社会における協同組合の役割」をテーマに、日本における人口減少の状況や政府が進めようとしている都市計画の骨子、そしてその中での協同組合の新たな役割の提起がありました。

岐阜県協同組合間提携推進協議会に加盟している農協同組合、酪農農業組合、生活協同組合の合計組合員数は82万7,000人。これは岐阜県人口の41%に相当します。これまでも協議会の取り組みを一つずつ積み重ねてきており、昨年度も新しい活動として「長良川清掃活動への参加」や「協同組合に関する学習会」を行いました。

### 三重県「国際協同組合デー記念ワンコインコンサート〜地域とともに!協同組合は三重の元気を応援します!〜」 —7月11日/三重県文化会館 大ホール(三重県津市)・出演:ヴァイオリン中村太地、ピアノ佐藤卓史

三重県協同組合連絡協議会(以下、MJC)は三重県文化会館が7月に開催するワンコインコンサートに对外広報活動の一環として協賛しました。ロビーでは、伊勢茶のふるまいと、協同組合運動や各団体の地域貢献活動、SDGsを来場者の方々へお伝えしました。当日の来場者は約1,000人でした。

9月14日は、MJCの各団体若手職員の育成を目的とした「協同組合学習活動」のフォローアップ研修「JCAの設立とSDGsを見据えた今後の協同組合間連携について」を日本協同組合連携機構の前田部長にご講演いただきます。11月22日には、「協同組合学習活動」を開催します。各団体の事業内容を理解し合い、三重大学人文学部・青木教授に「協同組合の役割と協同組合への期待」をご講演いただきます。

(わたなべ かつひろ、地域と協同の研究センター事務局)

地域と協同の研究センター研究員報告 (中間)

「日本社会における外国人雇用と協同組合に期待されること」

神田すみれ

多文化ソーシャルワーカー

I. はじめに

1990 年に入管法が改正して約 30 年が経過し、日本にはすでに多くの外国人とその家族 (海外にルーツをもつ子ども・若者) が生活している。留学生や技能実習生の増加、介護の在留資格、特区等様々な制度の新設により、日本で生活する外国人は増加し続けている。

この 4 月には在留資格「特定活動」が新設され、介護・観光・外食業・建設・農業・造船等、14 業種で、これまでは認められていなかった外国人の単純労働が可能となった。

II. 日本の技能実習制度とその問題点

技能実習制度は、日本で技術を習得し、母国へ帰国した後、その国の発展に寄与するという国際貢献が目的とされている制度であり、名目と実態の乖離が指摘されている。

技能実習制度は、職場の異動や転職ができない、家族の帯同が許されないという制度上の問題や、雇用主による借金による束縛、暴力、強制送還の脅迫、パスポートの取り上げ、セクシャルハラスメント、長時間労働、移動の制限等が指摘されている。最近では、技能実習生の妊娠を理由に雇用契約の解約、強制送還する雇用主から逃れるために、失踪、非正規滞在者となり病院で無保険で出産するケースが全国各地で増加している。

また、国際社会からも厳しく批判されており、米国国務省の人身取引報告書では 2016 年まで繰り返し指摘がされてきている。「日本は、強制労働および性的搾取の人身取引の被害者である男女、および性的搾取の人身取引の被害者である児童が送られる国であり、被害者の供給・通過国である。主にアジアから移住労働者は男女ともに、政府の技能実習制度を通じた一部の事案を含め、強制労働の状態に置かれている。」 2017 年には人身取引撲滅の取り組みを評価する記述があるものの、依然として「技能実習制度における労働搾取を目的とする人身取引犯罪の可能性」についての言及がなされている。

このように、外国人技能実習制度は、多くの問題点や課題が指摘されているにも関わらず、厚生労働省はこの制度を廃止する考えは示していない。当面の間、制度の改正や規制強化により、制度を継続していくであろう。

日本政府が移民政策をもたないまま、事実上の移民受け入れが進み、その矛盾から生まれるしわ寄せが、

技能実習制度にもあらわれている。

(日本の企業等の動向)

現在の在留資格の制度上、技能実習制度以外で労働力を確保することが困難であり、多くの企業が他の選択肢がないまま、この制度を活用している。

先に挙げた様々な問題が取り沙汰される一方で、技能実習生と良好な関係を築いている企業等も多い。食事や住まい、地域との関係性を含む、実習生の生活全般、社内で独自の日本語教育を行ったり、メンター制度、本国の家族とのコミュニケーション等、相当きめ細かな配慮をしていることがわかる。

III. 東海の生協や関連団体での外国人雇用

東海地域の生協や関連団体でも、就労制限のない在留資格をもつ永住者、定住者、日本人の配偶者等、そして週 28 時間までのアルバイトが認められている留学生の雇用があり、今後増加していくと思われる。

IV. 全国的生協での技能実習生の雇用

4 月にヒアリングを行った日本生協連によると、全国的には技能実習生の雇用が進められており、今後もこの動きは加速していくとのことであった。

「生活協同組合研究」Vol.522 では、「生協における外国人雇用の状況 (2018 年書きヒアリング時点のもの)」として次のように報告されている (表 I)。

V. 生協の現場の雇用環境の厳しさに関わる日本生協連の見通し

【表 1】

受け入れ主体	受け入れ状況
A 生協	食品工場で 156 人、物流施設で 13 人、生鮮加工センターで 27 人、店舗 (広報生産・加工) で 21 人、合計 217 人を受け入れています。国籍はベトナム人 170 人、中国人が 47 人です。物流センターの一角に技能実習生専用の寮 (2 人部屋が 45 部屋) を建設しているのが大きな特徴です。
B 生協	畜産部門で 11 人、水産部門で 4 人、店舗水産部門 (後方加工) で 4 人、店舗惣菜 (後方生産・加工) で 6 人、合計 25 人のフィリピン人技能実習生を受け入れています。
C 生協の子会社	掃除製造業職種 (惣菜加工作業) として、食品工場で 31 人、店舗 (後方での生産・加工) で 8 人のベトナム人技能実習生を受け入れています。
D 生協の子会社	加工センターの畜産部門で、9 人のインドネシア人技能実習生を受け入れています。
E 連合会の子会社	惣菜加工センターにおける実験的な取り組みとして、惣菜製造業職種 (惣菜加工作業) で 4 人のベトナム人技能実習生を受け入れました。
F 連合会の子会社	この間、技能実習生とは異なり、経営・管理者 (就労ビザ) として「技術・人文知識・国際業務」の区分で、24 人の外国人を受け入れてきました。また、2018 年 12 月に初めて「機会保全」(物流ラインの保全) で 25 人のネパール人技能実習生を受け入れました。

日本生協連も、生協の現場の労働力を技能実習生以外で補うことは難しいため、技能実習制度の活用を進

めていく方針とのことであった。

とはいえ、技能実習制度で雇用可能な職種は限られており、各業界の要請によって職種が追加されているという現状がある。(※入管法改正案が国会で議論されていた最中の 11 月 16 日にも、技能実習 2 号の職種が 80 職種 142 作業に拡大された。)

生協でも、店舗、後方作業、宅配・配送、ドライバー補助等、人手不足の職種は、在留資格の制度上、外国人の雇用ができないため、日本生協連は「現状(これらの職種での)外国人の雇用はあきらめているが、今後、日本生協連として(技能実習 2 号の職種に拡大を)要請していくことも視野に入れている。」としている。(4 月ヒアリングによる)

## VI. 生活協同組合における外国人の雇用のあり方、期待されること

賀川豊彦は「友愛の政治経済学」で「協同組合経済

の真価は、搾取の無い計画された経済の体系であることにある。それゆえ、協同組合体制の諸原則がすべて組合員によく理解されていなければ、この制度は、たとえ外圧にしばらくは持ちこたえても、結局は崩壊してくであろう。」と述べている。

生協とその組合員は、協同組合の思想と哲学、人権や倫理的な側面から技能実習制度を含めた外国人の雇用のあり方をどのように考えるか。

人手不足、人件費、商品価格競争という現実的な課題がある中で、現在の在留資格の制度上、他の選択肢がないとはいえ、無批判で技能実習制度の導入を進めるのではなく、議論がなされる中で進められることが望ましい。

協同組合の思想と哲学に基づいた雇用のあり方を模索、社会に提示していく役割を意識し、地域での生活者という視点も含めた外国人雇用について、議論が重ねられることを期待する。

(かんだすみれ)

# 情報クリップ



NAVI 2019.7 No.808

「インターネットプロモーションを活用して組合員・生協とのつながりをつくる」

日本生活協同組合連合会 2019 年 7 月、A4 判、36 頁、360 円

特集 インターネットプロモーションを活用して  
組合員・生協とのつながりをつくる

- < コープのある風景 > パルシステム茨城 栃木
- < 今日笑顔のコープさん生協の仲間のお仕事拝見 >  
鳥取医療生協 岡本駿也さん
- < 想いをかたちにコープ商品 >  
CO・OP 花かつお
- < 生協大好きママ コプ山さんの 教えて! CO・OP 商品 >  
CO・OP ふっくらしらす干し
- < ZOOM IN 生協の店舗づくり >  
とちぎコープ コープ越戸店
- < あなたの町の組合員活動 > 東都生協
- < 組合員さんが語る私の生協ライフ >  
生協コープかごしま

- < 世界と日本の協同組合 >  
レインボーグローサリー (アメリカのワーカーズコープ)
- < 日本全国 宅配現場におじゃまします! >  
**東海コープ事業連合、コープあいち**  
現場の作業効率を格段にあげた スマートフォン  
配達業務支援端末
- < いつでもどこでも 地域とくらしを支えます >  
青森県民生協
- < 明日のくらし ささえあう CO・OP 共済 >  
コープあきた 土崎店
- < この人に聴きたい >  
段ボールアーティスト 島津冬樹さん
- < ほっと navi > 日本生協連 コープおおい

生協運営資料 2019. No.308

ダイバーシティのあり方を生協の現場から考える

日本生活協同組合連合会 2019 年 7 月、B5 判、96 頁、870 円

巻頭インタビュー ●わが生協かくありたい!  
事業の現場で出会った人たちから生協のあり方や価値を  
学び連帯を通して生協の役割を発揮する  
いばらきコープ ●代表理事 理事長 鶴長義二氏

特集

ダイバーシティのあり方を生協の現場から考える

- 1 20 期に及ぶ技能実習生の受け入れを通して  
外国人就労の課題と可能性を考える  
コープフーズ株式会社 ●取締役 石狩工場  
工場長 山田英之氏  
コープさっぽろ ●店舗運営部 部長 兼  
営業企画グループ長 前田博幸氏

- 2 事業の成長とビジョンに基づき70歳定年制を実現働き続けられる環境を当事者と共に整備する  
エフコープ●若松支所 業務支援担当 竹林一廣氏  
管理管掌補佐 永芳陽子氏  
人事部 人事企画課 課長 竹下哲哉氏
- 3 宅配の経験がなくても仕事を「見える化」し部下を育てることでセンター長の役割を果たす  
コープこうべ●協同購入センター宝塚 センター長 浅井亜紀子氏  
組織管理部 人事・労務担当係長 西條慶子氏
- 4 経営者が社員と理念を共有するだけでなく共に実現することで社員に選ばれる会社になる  
三和建設株式会社●代表取締役社長 森本尚孝氏

連載

- これからの店舗事業のあり方を考える  
第19回農協との共同運営店舗は地域社会を活性化する場  
お互いの長所を生かし競合店にない価値を訴求する

- みやぎ生協●A&COOP角田店 店長 三浦和広氏  
エリアリーダー 渡辺京子氏  
株式会社Aコープ東北●店舗事業部 宮城店舗課 課長 森口清高氏
- 全国生協の宅配事業・宅配センター運営を学ぶ  
第32回 Web 広告の経験を積み、成果を上げるにはKPIを意識した「広告計画」が必須  
株式会社スターフィールド●代表取締役 星野稔和氏

特別企画

- 産地と共に安全・安心を求めてきた生協は農業の未来と可能性とどのように関わるか  
紀ノ川農業協同組合●専務理事 松本和広氏

協同組合の役割をあらためて学ぶ書籍のご案内

- 第一次共著 未来を拓く協同の社会システム
- 第二次共著 協同による社会デザイン  
小木曾洋司、向井清史、兼子厚之 編 日本経済評論社

**月刊JA 2019.7 vol.773**  
**全国農業協同組合中央会 2019年7月、A4判、48頁、年間予約5,156円（消費税込）**

スゴイ農業、スゴイJA

- J A 自己改革の現場から  
市民と農をつなぎ、市民同士を結び付ける援農システム  
——J A相模原市・NPO援農さがみはら（神奈川県）  
取り組み  
岩崎真之介  
J A・農政トピック  
国際協同組合デーについて考える  
——今年の世界共通スローガンは「協同組合は、働きがいのある人間らしい仕事（ディーセント・ワーク）を実現します」  
前田健喜  
きずな春秋——協同のこころ—— 童門冬二  
地域を元気にする人たち 山岡淳一郎  
私のオピニオン 桑原 悠

- 協同組合とSDGs  
第4回生協の気候変動対策と再生可能エネルギー拡大の取り組み  
親良貴泰夫  
J A トップインタビュー  
小さなJ Aが力を合わせて  
佐藤正昭（北海道 J Aこしみず 代表理事組合長）  
展望 J Aの進むべき道  
自己改革・対話を進め、政策の実行を求める  
比嘉政浩（J A全中専務理事）  
海外だより [D.C.通信] 連載 98  
トランプ政権に振り回されるアメリカ農業者  
伊澤 岳  
第32回 広報活動優良J A紹介  
総合の部 準大賞/J Aにいがた南蒲（新潟県）

**文化連情報 2019.7 No.496**  
**米中对立の中の日米FTAの危険**  
**日本文化厚生農業協同組合連合会 2019年7月、A4判、72頁、文化連情報編集部 03-3370-2529 \*注**

- 農協組合長インタビュー（57）農協と組合員一体で改革を推進  
新田 靖  
協同組合としての厚生連～新しい職員の皆さんを迎えて考える（上）  
東 公敏  
院長リレーインタビュー（312）  
ささえあい、ともに生きる、地域に開かれた  
精神科の専門病院として 中瀬真治  
二木教授の医療時評（170）  
「地域包括ケア研究会2018年度報告書」を複眼的に読む  
二木 立  
米中对立のなかの日米FTAの危険 田代洋一  
先覚者の農業論・協同組合論と現代  
新渡戸稲造、柳田国男、賀川豊彦  
賀川豊彦の協同組合論と協同組合国家 北出俊昭  
検査用試薬における費用適正化に向けて 松本光弘

- 一門さんのことば⑦ 農協は農村の駆け込み寺  
佐治 実  
多様な福祉レジームと海外人材（16）  
EPAで就労する人々は日本での暮らしをどう見ているか②  
安里和晃  
臨床倫理メディエーション（35）同意について（1）  
中西淑美  
全国統一献立  
栃木 大根そば かんぴょうサラダ いもフライ  
押山美千代  
地域に寄り添い世界を見据える 第73回佐久病院祭  
浦 夏海  
地域で自分らしく暮らす（3）  
NPOむすびの認知症カフェとボランティア  
小磯 明

野の風●西葛西インド人街に思う…「川」 西村菜穂子  
 デンマーク&世界の地域居住 (122)  
 「福祉(総合事業)で地域づくり」に取り組む(山口県萩市1)  
 松岡洋子  
 熱帯の自然誌 (40) はじめての奥地調査へ 安間繁樹  
 イギリスの病院 (12)  
 NHS North East Leadership Academy (1)  
 NHS の仕組み  
 小磯 明

□書籍紹介  
**協同による社会デザイン/朝倉美江**  
 アフターヨーロッパ  
 ▶線路は続く (132)  
 北陸鉄道石川線白山の縁結び/西出健史  
 ▶最近みた映画  
 ニューヨーク公共図書館エクス・リブリス/菅原育子

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(★)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

**企画案内**



命を生み出す母親は 生命を育て 生命を守ることを望みます  
**第65回日本母親大会 in 静岡**

2019年8月24日(土)～25日(日)

- 24日(土) : 分科会 12:30～17:00 (受付11:30～)  
 会場：グランシップ (14分科会) 会場：焼津文化会館 (5分科会)  
 会場：静岡県男女共同参画センター「あざれあ」(11分科会)  
 ■見学分科会 (5コース)

- 25日(日) : 全体会 9:30～14:30 (受付開始8:45～)

会場：グランシップ 大ホール・海 記念講演 「ビキニ被災から65年—核兵器のない平和な未来を」 講師：富田宏治さん(関西学院大学教授) ●オープニング 和太鼓「濱鼓僧」 ●文化行事 横尾歌舞伎	会場：グランシップ 中ホール・大地 記念講演 「女性差別撤廃条約採択40年—ジェンダー平等の実現めざして」 講師：浅倉むつ子さん(早稲田大学名誉教授) ●オープニング ハレルヤ君の津軽三味線 ●文化行事「三社祭礼囃子」
---	--

会員券 1日2500円 1歳以上の子どもさんの保育あり(両日) 8月9日までに申込

主催：第65回日本母親大会実行委員会 Tel: 03-3230-1836 FAX:03-3230-1837

開催：静岡県母親大会実行委員会 Tel・FAX 054-253-6081

協力：東海各県母親大会実行委員会(愛知・岐阜・三重)

7月の活動		8月の予定	
3日(水)	愛知の協同組合間協同相談会	1日(木)	三重地域懇談会世話人会
4日(木)	名市大寄付講義⑩、理事ゼミ世話人会	3日(土)	共同購入マイスター②
5日(金)	三河地域懇談会世話人会	5日(月)	市民協働サポーターフィールドワーク(設楽町)
6日(土)	共同購入事業マイスター①	6日(火)	研究フォーラム地域福祉世話人会
8日(月)	2019国際協同組合デー記念行事 in 愛知	9日(金)	第3回常任理事会
9日(火)	研究フォーラム食と農世話人会、 全国協同組織交流会議(JCA)	17日(土)	尾張地域懇談会世話人会
10日(水)	都道府県協同組合連携組織 全国交流会議 アジアの平和、食と文化フェア実行委員会	19日(月)	NEWS編集委員会
11日(木)	名市大寄付講義⑪	20日(火)	三河地域懇談会世話人会
15日(月)	くらしを語り合う会 18日(木) 名市大寄付講義⑫	21日(水)	研究フォーラム環境世話人会
19日(金)	NEWS編集委員会	23日(金)	協同の未来塾③
20日(土)	岐阜地域懇談会 プチフォーラム	27日(火)	岐阜地域懇談会世話人会
22日(月)	市民講座拡大運営委員会	29日(木)	愛知の協同組合間協同相談会
25日(木)	名市大寄付講義⑬	31日(土)	共同購入マイスター③、愛知県立大学地域連携事業
26日(金)	協同の未来塾②		
29日(月)	第2回常任理事会(10-12時/れあ3階③)		